

外為マンスレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/09/01

「リスク・オン」の流れが続くか

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	↑	材料とチャートの方向が揃うか 予想レンジ: 95.100 ~ 100.000 円	2-3
NZドル/円	↑	RBNZとNZ総選挙に注目 予想レンジ: 85.600 ~ 89.500 円	4-5
ランド/円	↑	チャートは上を示すが・・・ 予想レンジ: 9.300 ~ 10.100 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

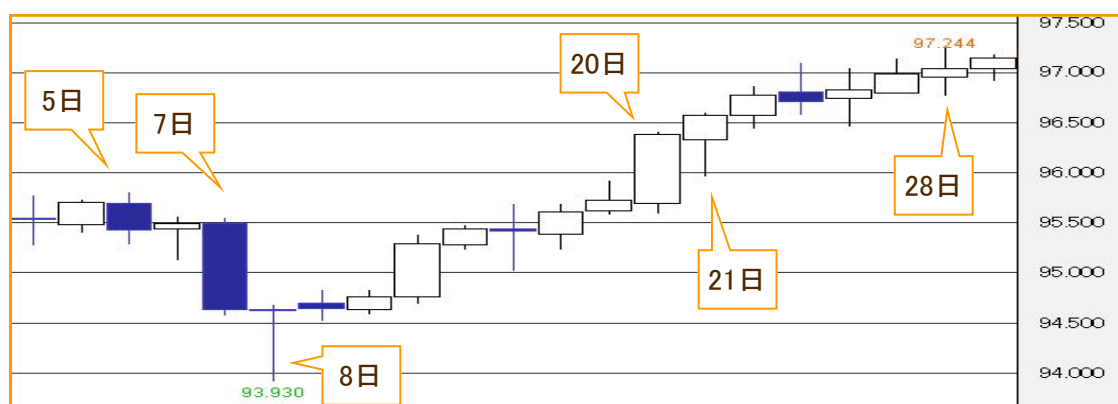
Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 8月の推移

AUD/JPY

8月の豪ドル/円相場は93.930～97.244円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.7%の上昇(豪ドル高・円安)となった。

前半はウクライナ情勢不安がくすぶる中、イラク情勢が緊迫化してリスク回避の動きが加速した事から、豪ドル/円は8日に月の安値となる93.930円を付けた。ただ、その後はイラクやウクライナ情勢不安を一段と煽る材料が出なかったため、主要国株価が堅調に推移する中で徐々に「リスク・オン」となり、豪ドル/円はこの流れに乗って緩やかに上昇。ドル/円が104円台に上伸した事も追い風となり、28日に昨年6月以来となる97.244円まで上昇した。



四本値

OPEN	95.550
HIGH	97.244
LOW	93.930
CLOSE	97.148

5日	豪準備銀行(RBA)の声明文は前月とあまり変わらない内容であったが、豪ドル高牽制の姿勢を強めなかったため豪ドル/円は買われた。しかしその後、ポーランドのシコルスキ外相が「ロシアがウクライナへの圧力行使もしくは侵攻に備え、ウクライナ国境沿いに軍部隊を集結させた」事を明らかにした。これを受けてNYダウ平均が下げ幅を拡大すると、95.292円まで急落した。
7日	豪7月の失業率が6.4%、新規雇用者数は0.03万人減と予想(6.0%、1.32万人増)より弱い結果となった。これを嫌気して豪ドル売りが強まり、豪ドル/円は95円を割り込んで急落。「ウクライナ東部で戦闘機が撃墜された」などの報道によりリスク回避ムードとなると、豪ドル/円は米長期金利の低下を受けたドル/円の下げに連れて94.60円前後まで一段安となった。
8日	RBA四半期金融政策報告において「失業率は高止まりの公算、2016年まで低下しないと見られる」「2014年末の基調インフレ見通しは2.25%(前回:2.50%)、経済成長見通しは2.50%(同:2.75%)」と、概ね弱気なスタンスを示した。ほぼ同時刻にオバマ米大統領がイラクへの空爆を許可した事が報じられると、日経平均が急落し、円が全面的に上昇した。これらを受けて豪ドル/円は93.930円まで急落するも、その後はNY市場に入ると「ロシア政府はウクライナ紛争の緊張緩和に乗り出す意向を示した」と報じられた事もあり、買い戻された。
20日	RBAのステーブンス総裁が議会証言で「生産性が改善している証拠がいくつか見られる」「労働市場の指標は改善したようだ」との見方を示す一方、「先行きの豪ドル急落のリスクは過小評価されている」「有益と判断すれば為替介入は手段の一つ」など豪ドル高を牽制する発言も行ったが、豪ドル/円相場の反応は限定的。その後、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録で早期利上げの可能性が示されたにも関わらず、公表後に一時上げ幅を縮小したNYダウ平均が再び上昇すると、96.412円まで上昇した。
21日	中国8月HSBC/マークイット製造業PMI・速報が50.3と予想(51.5)を下回ると、豪ドル/円は95.972円まで下落するも一時的。その後はNYダウ平均の堅調推移を受けて96.601円まで反発した。
28日	豪4-6月期民間設備投資が前期比+1.1%と予想(-0.9%)外のプラスとなり、前回分も修正(-4.2%→-2.5%)された事が好感され、豪ドル/円は昨年6月以来となる97.244円まで上昇。ただ、その後はウクライナのポロシェンコ大統領が「ロシア部隊が領内に侵入したと、対応策を協議するため安全保障国防会議の緊急会合を招集した」と発言し、リスク回避ムードが強まると、反落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	15511.54
HIGH	15628.78
LOW	14753.84
CLOSE	15424.59

NYダウ平均

OPEN	16561.70
HIGH	17153.80
LOW	16333.78
CLOSE	17098.45

上海総合指数

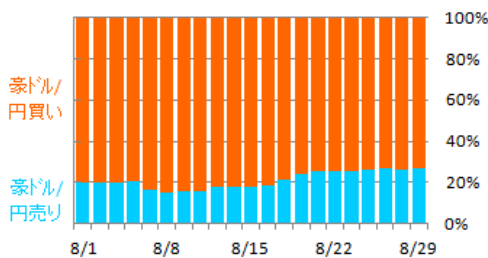
OPEN	2194.170
HIGH	2248.939
LOW	2180.597
CLOSE	2217.200

豪10年債利回

OPEN	3.5100%
HIGH	3.5320%
LOW	3.2760%
CLOSE	3.2930%

8月のポジション動向

豪ドル/円ポジション指数



9月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・RBAキャシュターゲット(2日)
- ・豪第2四半期GDP(3日)
- ・米8月雇用統計(5日)
- ・豪8月雇用統計(11日)
- ・RBA議事録(16日)
- ・米FOMC(17日)
- ・ウクライナ情勢・中東情勢
- ・国際商品価格
- ・主要国株価

9月の見通し

今月の豪ドル/円は97円台に乗せて始まっており、この後は先月の上値抵抗ゾーンであった97.20円レベルをしっかりと超えられるかが焦点となろう。テクニカル面では、豪ドル/円は日足・週足の一目均衡表に上昇示唆とされる「三役好転」が点灯しており、上値模索の機運が高まっていると考えられる。また、材料面では、豪4-6月期国内総生産(GDP)や豪8月雇用統計に注目したい。足元の豪州経済が緩やかな回復基調にある中、予想より強い結果が相次ぐようならば、チャートと材料の両面が豪ドル/円の上昇を示唆する事となる。もし昨年4月高値(105.407円)~8月安値(86.399円)の下げ幅61.8%戻し(98.146円)を超えると、100円の大台まで上値余地が拡大する可能性がある。ただ、足元の豪ドル/円相場は昨年6月以来の高水準にあるため、主要国株価やドル/円が下落する場面では利益確定の売りが集まるリスクがある点には留意したい。

その他、ウクライナや中東情勢に動きがあれば豪ドル相場に影響を与える事が予想されるため、引き続き注意が必要だろう。
(川畑)

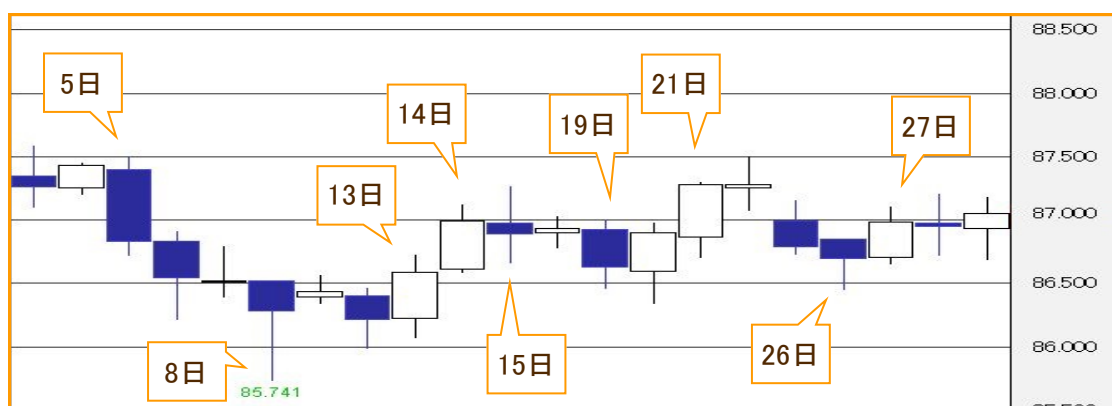
(予想レンジ: 95.100~100.000円)

NZドル/円 8月の推移

NZD / JPY

8月のNZドル/円相場は85.741～87.589円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.4%の下落(NZドル安・円高)となった。

NZ乳業大手フォンテラが実施する入札価格が下落した事や、イラク情勢が緊迫化した事によるリスク回避の動きにより、NZドル/円は8日に今年3月以来となる85.741円まで下落。その後は主要国株価が堅調に推移し、豪ドル/円やランド/円はじりじりと値を上げるも、NZドル/円は上値の重さが目立つ展開となった。その理由として、NZ準備銀行(RBNZ)が利上げ休止中である事や、NZ政府が国内総生産(GDP)や財政黒字見通しを下方修正した事が重石となったと見られる。



四本値

OPEN	87.352
HIGH	87.589
LOW	85.741
CLOSE	87.055

5日	NZ乳業大手フォンテラが実施した入札価格が前回から下落したため、NZドル/円は下落。ポーランドのシコルスキ外相が「ロシアがウクライナへの圧力行使もしくは侵攻に備え、ウクライナ国境沿いに軍部隊を集結させた」事を明らかにした。これを受けてNYダウ平均が下げ幅を拡大すると、86.729円まで続落した。
8日	オバマ米大統領がイラクへの空爆を許可した事が報じられると、日経平均が急落し、円が全面的に上昇したため、NZドル/円は一時85.741円まで急落。ただ、NY市場に入ると「ロシア政府はウクライナ紛争の緊張緩和に乗り出す意向を示した」と報じられた事もあり、NZドル/円は買い戻された。
13日	予想より弱い米7月小売売上高の結果を受けて米国の利上げ先送り観測が浮上し、NYダウ平均が一時100ドル超上昇。NZドル/円は86.728円まで上伸した。
14日	NZ第2四半期小売売上高が前期比+1.2%と予想(+1.0%)を上回り、前回分も上方修正(+0.7%→+0.8%)された。これを受けてNZドル/円は20銭弱上昇。その後、予想より弱い米週次新規失業保険申請件数を受けてNZドル/米ドル相場ではNZドル買い・米ドル売りが優勢となった影響を受けてNZドル/円は87.122円まで一段高となった。
15日	「ウクライナ軍がロシアからの武装車両を攻撃した」と報じられた事を受け、地政学的リスクが意識されると、NZドル/円は一時86.669円まで急落した。
19日	NZ第2四半期生産者物価指数が前期比-0.5%と前回(+0.9%)からマイナスの伸びとなった上、NZ政府が2014/15年度の財政黒字を2.97億NZドルと5月の予算案時点(3.72億NZドル)から下方修正を発表し、国内成長率(GDP)見通しは14/15年度(3月まで)が+3.8%と同時点(+4.0%)から引き下げた事も重なり、NZドル/円は86.468円まで急落。その後、NZ乳業大手フォンテラが実施した入札において、全脂粉乳価格が前回比-11.5%と発表され、NZドル/円は86.50円台まで値を下げるも、直後に「+3.4%」に修正されると86.90円台付近まで買い戻された。
21日	中国8月HSBC/マーケット製造業PMI速報が50.3と予想(51.5)を下回り、NZドル/円は一時86.714円まで下落。ただ、その後はNYダウ平均の堅調推移を受け、引け間際に87.302円まで反発した。
26日	NZ7月貿易収支が6.92億NZドルの赤字と予想(4.75億NZドルの赤字)より弱い結果となった。これを受け、NZドル/円は一時86.458円まで下落した。
27日	NZ乳業大手のフォンテラが2014/15年の乳価支払い見通しを1Kg当り6NZドルに据え置くと発表。これを受け、NZドル/円は一時87.20円前後まで上昇した。

NZD/JPY

日 経 平 均

OPEN	15511.54
HIGH	15628.78
LOW	14753.84
CLOSE	15424.59

NYダウ平均

OPEN	16561.70
HIGH	17153.80
LOW	16333.78
CLOSE	17098.45

上海総合指数

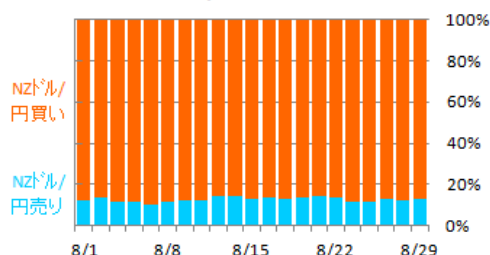
OPEN	2194.170
HIGH	2248.939
LOW	2180.597
CLOSE	2217.200

NZ10年債利回

OPEN	4.2590%
HIGH	4.2900%
LOW	4.0680%
CLOSE	4.0710%

8月のポジション動向

NZドル/円ポジション指数



9月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・NZ乳業大手フォンテラ入札(2日、16日)
- ・米8月雇用統計(5日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート(11日)
- ・米FOMC(17日)
- ・NZ4-6月期GDP(18日)
- ・NZ総選挙(20日)
- ・国際商品価格
- ・主要国株価
- ・ウクライナ情勢・中東情勢

9月の見通し

今月、NZでは金融政策発表と総選挙がある。まず金融政策発表について、7月の声明で利上げ休止を示唆して以降、初めてである。NZ乳業大手フォンテラによる乳製品入札が7月以降4回実施されいずれも前回は下回る弱い結果となったことや、足元のインフレ率が高まっていない事などから、市場では金利据え置きが広く予想されている。仮に金利据え置きとなれば、市場の関心は声明で利上げ再開について示唆があるかや、現在のNZドル相場の水準についての見解に集まるだろう。次に20日に予定されているNZ総選挙について、現時点ではキー首相率いる与党国民党が優勢となっている。前回(2011年)はキー首相率いる与党が議席を伸ばして勝利すると、NZドル/円は前週終値から窓を開けて高く始まった。この時は伊債務危機が和らいだという背景もあるが、今回の選挙で単独過半数を獲得できれば週明けのNZドル相場を押し上げる材料となるだろう。

その他、NZ乳業大手フォンテラによる乳製品入札について、今月は2日と16日に予定されている。NZの重要輸出品である乳製品の価格が下落傾向にある中では、同国の景気拡大は期待しづらい。引き続き入札結果に注目したい。

また、米国では8月雇用統計や連邦公開市場委員会(FOMC)が予定されており、これらを通して米長期金利や米株式市場がどのような反応を示すかにも注目したい。その他引き続き、ウクライナや中東情勢に動きがあればNZドル相場に影響を与える事が予想されるため、引き続き注意が必要である。(川畑)

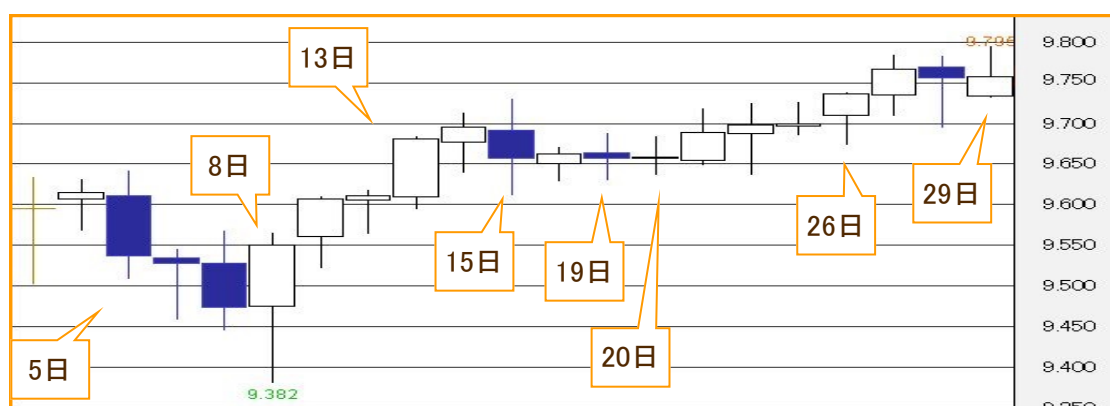
(予想レンジ: 85.600~89.500円)

ランド/円 8月の推移

ZAR/JPY

8月のランド/円相場は9.382～9.795円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.7%の上昇(ランド高・円安)となった。

前半はウクライナ情勢不安がくすぶる中、イラク情勢が緊迫化してリスク回避の動きが加速した事から、8日に月の安値となる9.382円を付けた。ただ、その後はイラクやウクライナ情勢不安を一段と煽る材料が出なかったため、主要国株価が堅調に推移する中で市場は徐々に「リスク・オン」となり、ランド/円もこの流れに乗って緩やかに値を上げた。一方、南アフリカ国内で発表された経済イベントは強弱まちまちであった事から、取引の手掛かり材料にはなりにくかった模様である。



四本値

OPEN	9.596
HIGH	9.795
LOW	9.382
CLOSE	9.758

5日	ポーランドのシコルスキ外相が「ロシアがウクライナへの圧力行使もしくは侵攻に備え、ウクライナ国境沿いに軍部隊を集結させた」事を明らかにした。これを受けてNYダウ平均が下げ幅を拡大すると、ランド/円は9.510円まで下落した。
8日	オバマ米大統領がイラクへの空爆を許可した事が報じられると、日経平均が急落し、円が全面的に上昇した事も重なり、ランド/円は一時9.382円まで急落。ただ、NY市場に入ると「ロシア政府はウクライナ紛争の緊張緩和に乗り出す意向を示した」と報じられた事もあり、ランド/円は買い戻された。
13日	予想より弱い米7月小売売上高の受けて米国の利上げ先送り観測が浮上し、NYダウ平均が一時100ドル超上昇。ランド/円は9.684円まで上伸した。
15日	「ウクライナ軍がロシアからの武装車両を攻撃した」と報じられた事を受け、地政学的リスクが意識されると、ランド/円は一時9.613円まで急落した。
19日	格付け会社ムーディーズが南ア4大銀行の格付けを引き下げた事を嫌気して、対ドルでランドは下落。ただ、予想を上回る米住宅指標を受けてドル/円が上昇していたため、ランド/円はドル/円での円売りとドル/ランドでのランド売りに挟まれて身動きが取れなかった。
20日	南ア7月消費者物価指数は前年比+6.3%と南ア準備銀行(SARB)のインフレ目標(年3-6%)を超えるも、予想(+6.4%)を下回る伸びとなったが、ランド/円相場の反応は薄かった。
26日	南ア4-6月期国内総生産(GDP)は前期比年率+0.6%、前年比+1.0%と予想(+0.9%、+1.2%)を下回る伸びとなったが、前期比年率は2期連続でのマイナスを回避できた事もあり、ランド/円相場の反応は薄かった。
29日	ランド/円は一時5月以来となる9.795円まで上昇するも、南ア7月貿易収支が69億ランドの赤字と予想(40億ランドの赤字)より弱い結果が伝わると上げ幅を縮小した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

日 経 平 均

OPEN	15511.54
HIGH	15628.78
LOW	14753.84
CLOSE	15424.59

NYダウ平均

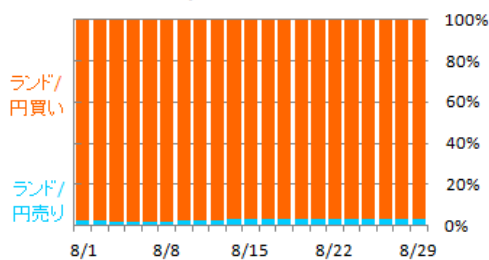
OPEN	16561.70
HIGH	17153.80
LOW	16333.78
CLOSE	17098.45

N Y 金

OPEN	1284.10
HIGH	1322.10
LOW	1272.00
CLOSE	1286.50

8月のポジション動向

ランド/円ポジション指数



9月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・米8月雇用統計(5日)
- ・南ア7月消費者物価指数(17日)
- ・米FOMC(17日)
- ・南アSARB政策金利発表(18日)
- ・ウクライナ情勢・中東情勢
- ・主要国株価
- ・国際商品価格

9月の見通し

先月のランド/円は、南ア国外の要因(イラク・ウクライナ情勢など)で下げるも、主要国株価の堅調推移を受けて上昇。テクニカル面では、ランド/円は9.40円レベルでの下値の堅さを確認した後に約3カ月ぶり高値水準に上昇して取引を終えており、今月は10円の大台に向けて上伸する可能性がある。そのためには、主要国で株高となり、ドル/円が上昇する必要があるだろう。

また、南アで金融政策発表が予定されている。市場では年内に0.25%利上げするとの見方が多いが、足元のインフレ率は5・6月(6.6%)と比べ鈍化している事から、SARBは今月の理事会では金利を据え置く可能性がある。ただ、GDPが2期連続のマイナスを回避したとはいえ鉱山ストの影響が出ている事から、当面SARBは低成長と高インフレの中での金融政策運営を迫られる公算である。今年の金融政策発表は今月を除くと残りは11月であり、もし今回金利据え置きが発表される場合、声明文で次回の利上げを示唆するかが焦点となるだろう。

その他、米国では8月雇用統計や連邦公開市場委員会(FOMC)が予定されており、これらを通して米長期金利や米株式市場がどのような反応を示すかにも注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 9.300~10.100円)